

平成30年度 学校評価実施報告書

<p>教育目標</p> <p>「生きる力（確かな学力・豊かな心・健やかな体）を育み、 自らの将来と次代を切り拓く生徒を育成する」</p>	
<p>年度末の最終評価</p>	
自己評価	<p>教育目標の達成状況，次年度に向けた見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> * 施設・設備の条件が厳しい中で前向きに日常の活動に取り組む生徒の姿が見られる。 * 学力の向上については，引き続き課題に応じた授業改善が求められる。 * 登校できない生徒に寄り添い，支える取組が引き続き求められる。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校の様子，雰囲気は大きく改善が進んでいることがわかる。 ・ 不登校傾向の生徒が増加の傾向にあることは心配される ・ 学力を高める取組は学校の中心的な役割であるので，引き続き努力していただきたい。

(1) 「確かな学力」の育成に向けて 『学力向上プラン』

<p>重点目標</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 入学時から必ず力をつけて卒業させる。指導と評価→結果に責任をもつ。 ② 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた質の高い授業への創意工夫を進める。
<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇授業では「本時の目標」を確認し，生徒同士が協働的に行う「まとめ・振り返り」を取り入れ理解と定着を徹底する。 ◇授業規律を確立し，発言や発表の機会を多く設け生徒中心の授業，深い学びに向かう授業を行う。 ◇新しい3学期制のもと，PDCA サイクルを生かしたカリキュラム・マネジメントを<u>実践し，年間計画に基づいた評価時期までの学習計画を明確にし，「つきたい力」を確実に身につけさせる授業を展開する。</u> ◇学年・教科で連携し，授業と連動した課題の内容とその提示方法に工夫・改善を行い，自主的な家庭学習の習慣化を図る。 ◇課題の発見・解決に向けた主体的・対話的な学びを重視し，<u>思考・発信型の授業を行う。</u> ◇教師による ICT の活用にとどまらず，生徒にも ICT 機器を活用したプレゼンテーションを行わせる。 ◇図書室を活用した授業を全教科で年1回以上行い，調べ学習等，情報収集や活用能力を高める。 ◇キャリア教育の視点から全教育活動を関連づけるとともに，「総合的な学習の時間」における探究的な学びを重視する。
<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <p>◇ジョイントプログラム5，学習確認プログラム，全国学力学習状況調査の結果分析</p>

◇学期末における学習評価

◇生徒アンケート

- あ) 毎時間の授業で、「自分で考える」ことができている。
- い) 毎時間の授業で、「自分の考え」について話し合うことができている。

最終評価

中間評価時に設定した各種指標結果

◆学習確認プログラム Basic2 (1年生) においては特に数学科の「数と式」領域において課題が認められる。Pre3 (2年生) においては特に数学科の「関数」領域と英語科の「聞くこと」において課題が認められる。同じく 2ndStage (3年生) においては特に数学科の「図形」領域と「資料の活用」領域、英語科の「書くこと」において課題が認められる。

◆社会・数学・理科・保健体育 (2学期末・12月評価) における「思考力・判断力」観点の評価

- 1年生 A (十分満足できる) …12.1 B (概ね満足できる) …46.2 C (努力を要する) …41.7
- 2年生 A (十分満足できる) …24.7 B (概ね満足できる) …49.1 C (努力を要する) …26.2
- 3年生 A (十分満足できる) …21.7 B (概ね満足できる) …50.0 C (努力を要する) …28.3

◆生徒アンケート

- あ) 毎時間の授業で、「自分で考える」ことができている。
そう思う…30.7 大体そう思う…56.6 あまりそう思わない…11.2 そう思わない…1.5
- い) 毎時間の授業で、「自分の考え」について話し合うことができている。
そう思う…25.1 大体そう思う…53.6 あまりそう思わない…19.1 そう思わない…2.2

自己評価

分析 (成果と課題)

- ◆次年度に向けた各教科会と学習指導部の課題として引き継ぐ。主たる改善点は授業そのものである。
- ◆思考力・判断力等の評価割合について、いずれの学年においても A (十分満足できる) が減少する結果となっている。適切に基準を設定するとともに引き続き授業改善が必要とされる。
- ◆あ) の肯定的回答が前期の 89.0% から -1.7 ポイントである。ただし、学年別に見ると 1年生 80.3 → 2年生 87.3 → 3年生 93.9 であり、学年進行に従って「自分で考える」姿勢や力が培われている。
- い) については肯定的回答割合に変化はないが、学年別に見ると 1年生 73.2 → 2年生 72.2 → 3年生 89.8 となっており、授業において「自分の考えについて話し合う」場面が設定され、学年進行に従って力の深まりが認められる。

分析を踏まえた取組の改善

- ・生徒にたいするアンケートについても「授業」一般について問うのではなく、各教科の授業について問う形に転換するなど、教科ごとにより丁寧に生徒の反応を評価していく必要がある。

重点目標の達成状況、次年度の課題

- ・「授業の改善」については、授業者が生徒に対して「授業評価アンケート」を実施するなどを含めて、より細やかな授業者自身の振り返りと分析が必要である。
- ・数値的な成果を向上させている教科 (今年度においては国語科) では、TT を契機として教科担任同士の学年を越えた意見交流・情報交流が日常的な授業研究を進めることにつながったと考え

	られる。TT や分割授業は生徒の学習活動そのものに対する取組であることは当然であるが、教員の授業力を向上させる効果にも着目して取り組みたい。形式的なものではなく実質的な教科会の役割が重要である。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業については先生方の一番の本業であるので、ぜひ研鑽に励んでいただきたい。 ・学生ボランティアの紹介等については協力していきたい。

(2)「豊かな心」の育成に向けて

重点目標
<p>① <u>主体性、自主・自律、向上心を育む指導を推進する。</u></p> <p>② 「ほめる」ことを大切に、「向上心」を育てる教育を実践する。</p>
具体的な取組
<p>◇あいさつや声かけを徹底し、生徒との信頼関係を築き、規律ある学校にする。</p> <p>◇常に目配り・心配りを心がけ、見逃しのない指導・機動力ある組織的な指導を行う。</p> <p>◇<u>生徒会活動や学級活動において生徒の自治意識を高める取組を推進する。</u></p> <p>◇<u>道徳の授業を要とした道徳教育を充実する。</u></p> <p>◇授業や学活では必ず一人一人全員への声かけと一人一人全員の発話を引き出すことを心がける。</p> <p>◇良さを伸ばし、課題に向き合う姿を支援する。</p> <p>◇個で取り組む場面、仲間と協力する場面、それぞれで適切な指導と評価を行い、達成感を味わわせるとともにさらなる改善向上への支援を行う。</p> <p>◇不登校生徒や困りをかかえた生徒に対して計画的な支援を行う。</p>
(取組結果を検証する) 各種指標
<p>◇道徳の時間の評価</p> <p>◇生徒アンケート</p> <p>あ) 学級での活動や、生徒会本部・各委員会から提案される活動に積極的に取り組んでいる。</p> <p>い) 道徳の時間には自分のことを振り返り、深く考えることができている。</p> <p>◇クラスマネージメントシート</p>

最終評価

中間評価時に設定した各種指標結果
<p>◆道徳の時間の評価</p> <p>生徒が「深く考えた」とする項目</p> <p>A 主として自分自身に関すること …24.6</p> <p>B 主として人とのかかわりに関すること …32.0</p> <p>C 主として集団や社会とのかかわりに関すること …18.3</p> <p>D 主として生命や自然、崇高なものとのかかわりに関すること …25.0</p> <p>◆生徒アンケート</p> <p>あ) 学級での活動や、生徒会本部・各委員会から提案される活動に積極的に取り組んでいる。</p> <p>そう思う…36.3 大体そう思う…49.1 あまりそう思わない…13.1 そう思わない…1.5</p>

い) 道徳の時間には自分のことを振り返り、深く考えることができている。

そう思う…34.2 大体そう思う…52.6 あまりそう思わない…11.76 そう思わない…1.5

◆クラスマネージメントシート

3年生は全学級「子どもたちにとってとても居心地のよい雰囲気」という評価である。1・2年生においては「子どもたちにとって落ち着いた雰囲気」「比較的落ち着いた雰囲気」「悪くはない」という評価もみられる。

自己評価	分析 (成果と課題) ◇前期と比較して B「人とのかかわり」D「生命や自然、崇高なものとのかかわり」の割合が高くなっている。年間の学習を通して、視野の広がりが見られている。 ◇生徒アンケート あ) について肯定的回答の割合は 84.9⇒85.4 と変化は小さいが「そう思う」が約 5 ポイントの伸びを示している。(31.4⇒36.3) い) については肯定的回答が 0.4 ポイント減となった。学年別に見ると「そう思う」が 27.1 (1年) ⇒31.6 (2年) ⇒42.9 (3年) と上級生ほど高い ◇個別に課題のある子どもがいる可能性を踏まえて、丁寧に対応することが求められている。
	分析を踏まえた取組の改善 ・「道徳の時間」の充実が生徒の「振り返り」「考える」姿勢を促し、個々の生徒の「落ち着き」を生んでいると考えられる。 ・引き続き、生徒の成長を適切に見取り、ほめ、励ます教員の姿勢を大切にし力量を高めることが求められる。
	重点目標の達成状況、次年度の課題 ・行事の取組や道徳の時間の活動に大きな成長が見て取れる。学級活動、委員会活動、学年の取組といった日常的な活動のさらなる充実に向けた教員の働きかけの在り方を研究したい。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・子どもたちの学校生活の充実とその成長ぶりが「合唱」や「体育大会」での様子から伝わってくる。正直言って、自分たちの中学校時代よりも向上していると感じている。 ・地域の行事にもこれまで以上に参加を促し、その姿を認め、ほめ、励ましていきたい。

(3)「健やかな体」の育成に向けて

重点目標 ① 「命を守りきる」「事故・けがの未然防止」を常に念頭に置く。 ② 笑顔であいさつする生徒を育てる。
具体的な取組 ◇ <u>体育館建替え工事期間中、安全を徹底し、創意工夫ある教育活動を推進する。</u> ◇校内外の清掃活動を徹底する。 ◇タイムリーかつ創意工夫ある掲示物を掲示する。 ◇ <u>学校営繕ならびに安全管理、救命講習等、平常時の危機管理を徹底する。</u> ◇防災訓練等で「もしも」に対する備えを行う。 ◇生活習慣の確立を支援し、健康を保持・増進する意識と態度を育てる。 ◇体育的行事や部活動の充実を図り、体力の向上を推進する。 ◇性に関して適切な行動選択ができる性教育を行う。

◇飲酒・喫煙・薬物乱用の有害性、危険性について正しい知識を身につけさせる。

(取組結果を検証する) 各種指標

◇事故・けがの発生件数とその内容

◇校内施設・設備点検票

最終評価

中間評価時に設定した各種指標結果

◆施設面の環境に大きな制約がある中、生徒・教職員とも工夫を凝らし配慮する中で教育活動を展開しており、事故の発生は免れている。

◆保健室の来室は4月～7月に比べて11月～2月が多い。その理由は「相談等」「腹痛」「頭痛」「しんどい」「風邪症状」の順である。

◆欠席者数は増加している。1月は1年生172, 2年生123, 3年生102となり、4月のおよそ4倍に及ぶ。

自己評価

分析 (成果と課題)

◇12月まで施設状況の困難は継続する。引き続き工夫と配慮を重ねる。

◇体調不良は気候との関連もある。ペットボトル入りのお湯を受け取って教室に戻る生徒も多い。

◇登校できなくなっている生徒との丁寧な関わりを維持する。

分析を踏まえた取組の改善

・保健室と職員室(各学年)との連携を引き続き強化する。

重点目標の達成状況, 次年度の課題

・次年度においても引き続き施設については大きな制約があることに変わりはない。教育活動をすすめるに当たって、安全確保を含めて日々工夫と改善が必要である。

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

・施設設備面の制約が厳しい中で、生徒はもちろん先生方もよく頑張ってくれている。

・小学校の設備の活用等、引き続きサポートしていきたい。

(4) 学校独自の取組

重点目標

9年間の教育目標 (中学校ブロックの小・中学校で共有すること)

「次代をたくましく生き抜く力を育てる」

目指す子ども像 (中学校ブロックの小・中学校で共有すること)

- ① しっかりとあいさつのできる子ども
- ② 意欲的に取り組み、やり切る子ども
- ③ 自ら学ぶ子ども
- ④ 自分, 人, ものを大切にする子ども
- ⑤ 健康, 安全に気をつける子ども

具体的な取組

☆学力向上を核とした小中連携の中心的役割を担い推進する。

- ・小中4校の管理職による定期的協議（年間6回程度）
- ・小中4校の教務主任，小中連携主任による定期的協議（年間8回程度）
- ・小中4校研究主任による定期的協議（年間5回程度）
- ・小中4校生徒指導部長，生徒指導主任による定期的協議（年間5回程度）
- ・小中4校連携による教科指導ならびに道徳の授業を通じた交流，参観，研究協議

（取組結果を検証する）各種指標

◇学習評価における「関心・意欲・態度」評価の状況

◇生徒アンケート

あ) 授業にはやる気の出る雰囲気がある

最終評価

中間評価時に設定した各種指標結果

◆9教科（2学期末・12月評価）における「関心・意欲・態度」観点の評価

1年生 A（十分満足できる）…38.5 B（概ね満足できる）…47.0 C（努力を要する）…14.5

2年生 A（十分満足できる）…34.7 B（概ね満足できる）…49.5 C（努力を要する）…15.8

3年生 A（十分満足できる）…52.8 B（概ね満足できる）…37.6 C（努力を要する）…9.5

◆生徒アンケート

あ) 授業にはやる気の出る雰囲気がある

そう思う…24.0 大体そう思う…55.8 あまりそう思わない…16.1 そう思わない…4.1

自己評価

分析（成果と課題）

◇数値上の状況は前期から大きな変化は認められない。しかし，学習を支え，進める力としてここに焦点をあてた授業づくりが必要である。

◇生徒アンケート 肯定的回答割合は 79.1⇒79.8 とあまり変わらない。学年ごとに見ると1年生 68.6（そう思う 12.8，大体そう思う 55.8），2年生 77.2（そう思う 21.5，大体そう思う 55.7），3年生 94.8（そう思う 35.7，大体そう思う 57.1）と上の学年ほど高い。現1年生，2年生も同じように高まっていくことを目指したい。

分析を踏まえた取組の改善

- ・連携については進展が認められる。実質としての一貫教育をさらに進める

重点目標の達成状況，次年度の課題

◇学力向上に向けた4校共通の課題として「関心・意欲・態度を高める」授業づくりを進めることを据え，その実現のために連携を強め，一貫教育を進める。

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・地域の子どもたちを4校が一体となって育て上げていただきたいと願う。